

学習内容報告書 フォーマット

学校名	八戸市立大久喜小学校
授業者	佐々木 永子

1. 単元計画

1-1. 単元名

海の幸（ウニ博士になろう）

1-2. 学年

3, 4年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間 社会科 理科

1-4. 単元の概要

- ウニの殻剥きをし、食べる活動
 - これまで行ってきたウニの殻剥きの活動を通して、ウニの生態に興味をもたせる。
- ウニの生態を調べる活動
 - 書籍を利用したり、タブレット端末を使用しインターネット検索を行ったり、水産科学館や水族館を見学したりすることにより、ウニの生態を調べ、理解を深める。
- 昔のウニ漁の仕方を調べる活動
 - 学校隣接の浜小屋で学習し、地域の方から昔のウニ漁について話を聞く。
- 調べたことの情報を発信する活動
 - 学習成果発表会の場で、これまで調べたことを様々な方法を使って発表する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

大久喜地区はウニ漁が盛んである。ウニ漁が行われる時期になるとウニの殻剥きを行っている家庭が多く、児童も殻剥きの手伝いを行っている。しかし、ウニの生態や漁の仕方についてはほとんど知らない事ばかりである。大久喜の海の恵みであるウニを通じた探究活動を行い、主体的に学習活動を進めていくための単元開発を行うことで、積極的に海とかがわっていく心情を育みたい。その際は、学校隣接の国指定重要文化財の浜小屋や、そこに保管してある漁具を活用する。また、昔の人の暮らしを学習する社会科と関連付けて教科横断的に単元を展開していきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ウニの体のつくりや生態について興味をもつ。
- ウニの生態を主体的に調査することができる。
- ウニの生態について学習したことを、伝えるように工夫して発表する。
- 大久喜の海に誇りと愛情をもち、いつもでも大切にしようという心情を養う。

1-7. 単元の展開（全36時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	○ウニの殻剥きを体験する。	○ウニが何を食べて成長しているか殻の中を観察させる。 【連携】大久喜・法師浜漁業生産部会
20	○ウニの生態を調べる活動をする。 ・タブレット端末やパソコン、書籍を使い、ウニの生態について調べる。 ・様々な方法でまとめ、発表をする。	○まとめ方、プレゼンの仕方についての方法を教える。(冊子、リーフレット、ポスター、プレゼンソフト等) 【評価】必要な情報を取捨選択しながら集めることができる。相手に伝わりやすい発表をする。
2	○八戸市水産科学館マリエントを見学し、インタビュー活動等行い、ウニの生態について調べたことの意味を深める。	○水産科学館の職員から話を聞くことで、ウニの生態についての理解を深めるとともに、発表に対する意欲を高める。 【連携】八戸水産科学館マリエント
2	○浜小屋の貯蔵庫においてある漁の道具を見学するとともに、漁業民俗保存会の方の話を聞いて昔の漁の仕方を学ぶ。	○昔と今の久喜漁港でのウニ漁の様子や人々の暮らしを比較させる。 【連携】八戸市博物館 大久喜法師浜漁業民俗保存会
3	○久慈地下水族科学館もぐらんどあで、北限の海女のウニ漁の様子を見学し、大久喜の今と昔の漁と比較する。	【評価】海女によるウニ漁と、大久喜漁港でのウニの採取の仕方の今と昔をそれぞれ比較し、ウニ漁の変遷や地域による違いに気づく。 【連携】久慈地下水族科学館もぐらんどあ
7	○これまでの学習のまとめをし、学習成果発表会の場で発表を行う。	【評価】ウニの生態や漁の仕方の歴史について、伝える情報やよりよく伝わる方法を選択し、発表する。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 36 時間中の 25・26 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・地域の歴史や先人の知恵にふれ、ふるさとを愛する心情を養う。
- ・浜小屋の収蔵品に触れ、その使い方やその道具を使っていた当時の浜の様子などをインタビューする活動を通して地域のすばらしさに気付かせる。(水汲み体験・浜小屋そうじ・ウニ採りのお話)

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
1 浜小屋に集まり、挨拶をする。	
2 イシビジャへ向かう。 イシビジャで水を汲み、交代で水を運ぶ。	・イシビジャ (湧き水) が今も生活用水の一部として使われていることを確認する。
3 浜小屋の掃除をする。 ほうきで掃く 水拭き雑巾で、床を拭く	・掃除をしながら浜小屋のつくりや保管されている道具を確認させる。
3 昔の浜での仕事 (ウニの採り方) などについての話を聞く。 ・使った道具 ・どれぐらい採れたか など	・あぶったせんべいを食べながら、話を聞くようにさせる。 【評価】 これまで調べたことと関連付けて、ウニ漁に関することをインタビューすることができる。
4 資料館を見学し、昔の漁具について調べる。	・昔のウニの採り方に関連する漁具を見つけ、特徴をメモしたり写真に撮ったりするなどの方法で記録させる。
5 浜小屋に戻り、感想を発表する。 ・お礼の言葉を述べ、記念写真を撮る。	【評価】 ウニ漁と関連付けて道具を見つけ、正確に記録することができる。

3. 今回の活動の自己評価

今年度の1学期は新型コロナウイルス感染症対策で、主に校内での調べ学習に時間を割いた。その中でも漁業生産部会や民俗保存会から協力をいただき、ウニに関する体験的な学習を進めることができた。

2学期には、水族館の見学や浜小屋学習、収蔵庫の見学など、関係機関との連携の在り方を工夫し、体験的な活動につなげることができた。また、学校行事である学習成果発表会において、他の学年の児童や保護者、地域の方に向けてこれまでの学習の成果を発表する機会を設定できたことは、児童の意欲の大きな向上につながった。

4. 今後の課題

インターネットで調べ活動を行ったが、サイトの内容が3,4年生には読み取ることが難しいものが多かった。同様に、ウニの文献や資料も思ったよりも多くなく、調べ学習に活用できるものを準備するのが難しかった。また、水族館でもウニを専門に扱っているわけではないので、こちらが意図した学習内容に合うような対応をしてもらうための打ち合わせに時間を要した。連携していく関係機関に自校の取り組みをしっかりと周知し、協力を仰いでいくことが今後の課題になる。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記事項無し

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。